



れんけいと支援



富山市今泉北部町2-1 / Tel: 076 (422) 1112 (代) <http://www.tch.toyama.toyama.jp> / 発行日 2013年1月

地域の医療・保健・介護・福祉の方とともに、皆様の健康をお守りします

「進む医科との連携」



歯科口腔外科部長 寺島 龍一

平成24年4月の診療報酬改定で周術期口腔機能管理が保険収載されました。がん等に係る全身麻酔による手術または放射線治療もしくは化学療法を実施する患者に対して、手術等を実施する保険医療機関からの依頼に基づき、周術期の口腔機能評価と一連の口腔機能管理を行うものです。以前より当科では採算を度外視して、脳神経外科と神経内科の病棟において口腔ケアラウンドを実施して誤嚥性肺炎や口腔粘膜炎の予防に微力ながら助力してきました。今回の改訂は、がん等の患者が対象ではありますが、健康に対する口腔ケアの有用性が一般に認識された結果と思います。

また糖尿病においては、当院の糖尿病教育入院パスに皮膚科・眼科などと共に歯科受診が組み入れられています。歯周病治療が糖尿病の病状改善に寄与するとの報告も散見され、第6の合併症とも言われている歯周病の診査と情報提供を積極的に行っています。

閉塞型睡眠時無呼吸症候群（以下、OSAS）もまた医科と歯科との連携が重要な疾患です。1995年にアメリカ睡眠医学会が軽症のOSAS、中等症以上であっても経鼻的持続陽圧呼吸装置（以下、CPAP）が許容困難なとき、あるいは手術適応がない場合に、口腔内装置の有用性を報告しています。この装置は下顎を前方に牽引することにより舌根の沈下を防止して症状の改善を図るものです。当科でも軽症やCPAPの使用が困難な症例を中心に年間10名前後の方に口腔内装置を作製して良好な結果を得ており、医科の疾患に対して歯科から提供できる重要な医療サービスの1つと考えています。

一時期、採算性の問題から病院歯科が次々と閉鎖されるということがありました。採算性は当然のことながら看過できない大きな問題ですが、当科としては院内・院外の各科との連携を通じて「必要欠くべからざる診療科」として認知されることが最重要と考えています。

関連各科・各所との連携を深めつつ、より一層地域医療に貢献する所存です。ご支援賜りますようお願いいたします。

Contents

「進む医科との連携」.....	1
研修・講演・勉強会のご案内.....	2.3
接遇向上委員会より外部講演のお知らせ.....	3
地域連携開放型病床講演会・懇親会のご案内.....	3
1月の地域連携・開放型病床症例検討会報告...	4
診療所・病院・施設訪問.....	5
災害訓練について.....	6
研修医のひとりごと.....	7
褥瘡セミナー開催のご報告.....	7
医師不在のお知らせ.....	7
外来部門の紹介.....	8
編集後記.....	8

1. 地域連携・開放型病床症例検討会



2月

病院機能評価受審のため2月の開催は中止いたします。

3月の予定は下記のとおりです。多数のご参加をお待ちしております。

予告

日時：3月12日（火）19：00～20：15 当院3階 講堂

ミニレクチャー：「ヒト乳頭腫ウイルスと子宮頸癌」

産婦人科 三輪 正彦

ヒト乳頭腫ウイルス（HPV）は子宮頸癌の組織中に高率にみられることが1983年に報告されました。その後、多くの研究者による精力的な研究から、HPVが子宮頸癌の原因ウイルスであることが判明しました。

子宮頸癌は近年、予防可能な癌として認知されるようになってきています。ご承知のように、HPV予防ワクチンが開発され、子宮頸癌予防に利用されています。中学生、高校生を対象にその接種には公費助成がされています。

HPVは100種類以上の亜型に分類されますが、その

一部が子宮癌と関連するとされています。これは高リスク型HPVと呼ばれ、検査によりその感染の有無を知ることができるようになりました。臨床の場では前癌病変である子宮頸部異形成に対し、HPV検査を利用して診断・治療されています。さらに、従来の細胞診とHPV検査を併用した、より正確な子宮癌検診の方法が模索されています。

HPV予防ワクチン、HPV検査を利用した診断法について、当科における経験例を含めて紹介させていただきます。

症例検討

「消化器内科」、「脳神経外科」の2例を予定しています。

2. 医療機器研修会



日時：2月5日（火）17：45～18：15

場所：集団指導室

テーマ「ペースメーカーの基本
（モードについて）」

講師 臨床工学技士 島崎 哲弥

3. 緩和医療委員会 学習会



日時：2月12日（火）18：00～19：00

場所：集団指導室

テーマ「症状緩和「呼吸困難・呼吸不全」
補助呼吸について」

講師 呼吸器看護エキスパートナース
赤田 文代
理学療法士 竹林由希世

4. 乳腺術後症例検討会



日時：2月19日（火）16：00～

場所：病理検査室

対象：医師、臨床検査技師、放射線技師、他

- * 毎月、2～3症例の手術症例検討をおこなって、エコー・細胞診・病理組織・マンモグラフィなどより深く検討していく方針です。
- * 日時が変更になる場合がありますので、参加希望の方は事前にご連絡ください。

5. 褥瘡対策学習会



日時：2月22日（金）17：45～

場所：集団指導室

テーマ「褥瘡予防のための
リハビリテーション」

講師 理学療法士 亀山 拓良

6. NST学習会



日時：2月25日（月）18：00～19：00

場所：講堂

テーマ がんと栄養マネジメント

講師 公立松任石川病院 石井 要先生

7. 看護研修



《衛星研修S - QUE Eナース》

日時：2月6日（水）17：40～18：50

場所：講堂

テーマ「最新の廃用症候群予防とケア」

日時：2月20日（水）17：40～18：50

場所：講堂

テーマ「今だからこそ知る必要がある
災害発生時の院内取り組み」

《新医療看護連携》

日時：2月27日(水) 17:40～19:00

場所：講堂

テーマ Vol.23 医療の安全に関する研修
「医療完全管理研修」

研修の横に対象となる職種マークをつけました。お気軽にお越し下さい。



接遇向上委員会より 外部講演のお知らせ

下記のとおり、当院接遇向上委員会へ外部講演の案内がありましたので地域医療機関・施設の方々へお知らせいたします。

リッツ・カールトンと日本人の流儀
人を動かす「洋の言葉」と「和の心」

『世界最高峰ホテルに学ぶ
医療・介護・福祉向け 接遇講座』

講師：元リッツ・カールトン日本支社長 高野 登氏

日時：3月6日(水) 19時～20時30分

場所：ポルファートとやま2階ホール

受講料：3,000円(事前申込に限り) 当日受付 5,000円

お申込み：株式会社プラチナコンシェルジュへ直接お問合せください。

富山市鹿島町2-3-9 TEL076-491-8320、FAX076-482-5420

E-mail info@pla-con.jp



平成24年度 富山市民病院

地域連携開放型病床講演会・懇親会のご案内

先にお知らせしたとおり、下記の予定で地域医療連携開放型病床講演会・懇親会を開催いたします。地域の先生方と当院の医師や看護師、メディカルスタッフとの意見交換を身近に行える一年に一度の機会として、職員一同楽しみにしております。是非お越しいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

日時：3月8日(金) 19時30分～

場所：富山第一ホテル

内容：講演会

テーマ：脳神経外科における最近10年間の軌跡

講師：脳神経外科 宮森 正郎

懇親会



《連載企画》 診療所・病院・施設訪問 94 おぎの内科医院

今回は「おぎの内科医院」を訪問させていただきました。

名 称	おぎの内科医院
住 所	富山県富山市本郷町47番 1
医 師	院長 荻野 英朗
標 榜 科	肝臓内科・消化器内科・内視鏡内科・一般内科
診察日・時間	月～金曜 午前 9:00～12:30まで 土曜 午前 9:00～13:00まで 月・火・水・金曜 午後 14:30～18:00まで 木・土曜は午後休診 日曜、祝祭日 休診
施設区分	無床診療所

訪問記



おぎの内科医院前景



荻野 英朗院長先生



荻野先生とスタッフの皆さん

暖かくやわらかい陽射しに、立山が美しく映る1月11日、本郷町で開業されている「おぎの内科医院」に訪問させていただきました。

「おぎの内科医院」は木のぬくもりを感じさせる山小屋風のデザインの建物で駐車場からの入り口はやさしいスロープでバリアフリー構造となっていました。中に入るとすぐにスタッフの方から笑顔で丁寧なあいさつを賜り、緊張した気持ちが一気に和らぐのを感じました。

院長の荻野 英朗先生は長く県立中央病院で肝臓内科という専門医療を提供されてこられ、医院のロゴマークも肝臓をイメージできる雪割草（学名：ヘパチカ）の葉をモチーフに考えられたそうです。「新しい医療を地域の方に身近に感じてもらいたい、そしてもっと身近なものにしていきたい。」との思いがあり昨年10月3日に「おぎの内科医院」を開業されたとのことです。開業後、「医師が専門医療機関での受診が必要と思っても患者さんがなかなか行けない理由があるということや、総合病院で勤務している時にはわからなかった患者さんの思いや事情などを直接感じる事ができた。」と話されました。また「今後は在宅医療へも力を入れていきたい。」と“地域医療を通して人々の幸福（しあわせ）実現をお手伝いしていく”という理念に沿った地域医療への熱い思いをお聞きすることができました。

スタッフの方は先生と看護師さん4名、そして事務の方3名の計8名とのことです。また看護師さんは糖尿病療養指導士の資格を持ち、糖尿病患者さんへの継続的な食事指導や日常生活の療養相談など、患者さん一人ひとりに合った指導ができるようにと個室なども用意されていると伺いました。患者さんにとって食事療法などを身近に指導してもらえる看護師がいるということは大変心強いと感じました。

気さくで穏やかに話される先生のご趣味を伺うと“薪ストーブ”とのことです。燃料となる木を切り、集めて自宅の置き場に積み上げる作業を自らすること、そして「薪ストーブの火がとても暖かくて好き」と話される先生の優しさと思いやりの心を趣味のお話からもうかがうことができました。訪問した私たちの心もほっこりと暖かくなり、帰路につきました。



愛犬 コロン

災害訓練について

臨床工学科 島崎 哲弥

当院は富山県から指定を受けている災害拠点病院です。災害拠点病院は、災害時に多発する重篤救急患者の救命医療を行うための高度の診療機能を有し、被災地からの重症傷病者の受入れ機能を有するとともに、DMAT（災害派遣医療チーム）等の受入れ機能、傷病者等の受入れ及び搬出を行う広域搬送への対応機能、DMATの派遣機能、地域の医療機関への応急用資器材の貸出し機能を有しなければなりません。

災害時にこれらを機能させ、被災者に医療を提供するために、当院では災害訓練を実施しています。

災害が発生した場合、災害のレベルに応じて、災害医療を行うための指揮・統制をする災害対策本部を設置します。災害対策本部は、多数の被災者の来院に備え、病院機能を一時的に制限し、被災者を優先した災害医療の活動方針を決定、職員の招集や院内外の情報収集、他の機関（消防・警察等）との連携を行います。

診療体制においては、来院された被災者へトリアージ（傷病者の緊急度や重症度に応じて適切な処置や搬送をおこなうために傷病者の治療優先順位を決定すること）を行い、傷病の状態を迅速に把握します。トリアージにより緊急治療を有する順から赤、黄、緑、黒へと分けられ、それぞれの状態に応じた診療を行います。当院が被災し、根本治療を提供することが困難な場合は、根本治療を受けることのできる病院への搬送も対応します。

東日本大震災では、災害拠点病院整備の結果、震災直後から迅速に院内活動が開始され、支援を受けながらも診療を継続した病院が数多くありました。このような整備・訓練を実施することで、万が一の場合においても病院機能を維持させることが可能であり、被災者へ医療を提供することができます。

今年度の訓練は、10名程度の被災者が搬送されるという小規模な災害設定で実施しました。本部では、受け入れベッドや事故情報が把握・記録され正しく調整されました。診療では適切にトリアージができ、状態に応じた医療が展開できました。

被災者数を少なくしたことで全体の流れが理解でき、災害医療を学ぶには効果的な訓練であったと思います。しかし、様々な課題も浮き彫りとなり、訓練の重要性を改めて感じました。

当院では、今後も様々な災害を想定し、規模を拡大させながら訓練を積み重ねてゆきます。災害拠点病院としての機能を整え、すべては被災者のために最大限の医療を提供する、災害時にも頼れる病院づくりを目指したいと思います。



研修医の ひとりごと

研修医 池田 紗希代



はじめまして。研修医1年目の池田と申します。いつも多方面の方々に大変お世話になっております。ありがとうございます。働き始めてもうすぐ1年が経過します。多くの診療科で研修する中で、様々な経験をさせていただき充実した毎日を過ごしています。命を預かる責任の重さ、自分自身の勉強不足な面や判断力が乏しいことで心が折れそうになることもたくさんあります。そんな時、周囲の方々が支えてくださるお陰でまた笑顔でスタートができるのだと思います。



富山で生まれ育ち培われた富山弁は、大学時代に他県出身の友人と話す際にも全く衰えませんでした。患者さんと富山弁でお話すると、心が温かくなり距離も近くなるように感じます。この距離感を大切に、医療現場に立っていけたらと考えています。

来年や5年後、10年後はどのように成長できているのでしょうか。仕事も遊びも全力で元気に頑張ります。未熟者ですがこれからもご指導ください。どうぞ、よろしくお願い致します。

褥瘡セミナー開催のご報告

年1回開催している褥瘡セミナーが平成24年11月に講堂で行われました。今回は褥瘡だけにとらわれず「脆弱な皮膚へのスキンケア」と題して、スミス・アンド・ネフュー ウンドマネジメント株式会社 望月 亮さんが講演してくださいました。

スミス・アンド・ネフュー ウンドマネジメント株式会社はスキンケア用品を扱うメーカーでセキュラシリーズ、ハイドロサイトシリーズといった製品があります。これらは皮膚の洗浄・保護・保湿を目的に使用される製品です。今回の講演では、ドライスキンや下痢便による浸軟といった脆弱な皮膚にこういった製品をどのように使用するのか、わかりやすく説明していただきました。

途中、創傷被覆剤の良い剥がし方を実践する場面があり、参加者全員に創傷被覆剤が配られ、自分の手に貼って隣の人とお互いに剥がしてみることを体験しましたが、参加者に概ね好評であったようです。



また、皮膚の構造、皮膚のバリア機能、バリア機能を損なう要因、表皮剥離が起きやすい状況についてもわかりやすく説明していただきました。

今回の参加者は124名（院内108名、院外16名）と昨年の1.5倍でした。多数の参加ありがとうございました。みなさんのご意見をいただきながら、魅力あるセミナーのテーマを今後も考えていきたいと思っております。

医師不在のお知らせ

外来担当日の休診のみ掲載

2月分

科名	不在日	医師名	科名	不在日	医師名	
内科	26日・27日	余川	外科	4日	泉	
	6日・15日	林		26日・27日・28日	廣澤	
	1日・8日	石浦		22日	月岡	
	28日	打越		整形外科・関節再建外科	22日	澤口
	20日	村本		22日	坂越	
	1日・5日	清水		28日	五嶋	
精神科	5日・6日	西田	その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。			

外 来 部 門

の紹介



今月は 内科外来

内科外来には、消化器内科・血液内科・呼吸器内科・循環器内科・内分泌代謝内科・神経内科・腎臓内科の7つの診療外来と禁煙外来・睡眠時無呼吸外来の2つの専門外来があります。スタッフは、内科専門医23名と看護師29名、医療助手4名で構成しており、地域医療支援病院としてより良質な医療を市民の皆様を提供することを使命とし、患者さんにご家族に自宅でもより良い療養生活をおくっていただけるような支援体制を目指しています。

現在内科ではとやまCKD病診連携パスやC型肝炎（インターフェロン）パスを運用し、地域の先生方との連携を図っています。また、平成24年10月からは糖尿病病診連携パスも運用開始となりました。さらに、エキスパートナースによる相談窓口（腎不全・糖尿病）を設け、患者さん個々の療養相談にも応じています。



外来全体として待ち時間の短縮や心地よい診療環境を提供できるよう、スタッフ一丸となり取り組んでいるところであり、患者さんとの日々のコミュニケーションを大切に、安心と笑顔を提供し、満足していただけるよう努力してまいります。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。



編集後記

当院は2月に病院機能評価の審査を控え、マニュアルの整備等に追われる毎日です。機能評価では地域連携に関わる項目も重視されており、今後もますます重要度が増していく分野だと思われます。

今年も、読者の方々に興味を持って読んでいただける広報誌を目指し、頑張っていきたいと思っています。本年もよろしくお願いいたします。

臨床検査技師 頼成 明奈



病院ボランティア 篠崎 佳子

「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 FAX 076 (422) 1154

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/>
がん・なんでも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp